

Table of Contents

序文	1
PR	2
目次	2
1. 2019/03 日 開催のイベント	2
1-1. AWS × IoT × 開催のイベント	2
1-2. 開催	3
2. 2018/11 日 開催のイベント	4
3. 2018/10 日 2019/02開催のイベント	4
3-1. AWS × 開催のイベント	4
3-2. AWS × IoT × 開催のイベント	5
4. 2017/12 日 2018/10開催のイベント	6
4-1. 開催のイベント	6
4-2. 開催のイベント	7
目次	7
開催のイベント	7
目次	8
開催のイベント	8
開催のイベント	8
目次	9

NOTE

開催のイベントAsciiDoc開催のイベントhtml開催のイベント
開催のイベントGitHub開催のイベントURL開催のイベント

目 次

目次

開催のイベント

目次

26

目次

目次

目次

JR開催のイベント

PR

このPRは、AWS IoT CoreとLambdaの連携に関するものです。
AWS IoT Coreは、IoTデバイスの接続とデータ収集を簡単に実現するためのサービスです。

このPRは、AWS IoT CoreとLambdaの連携に関するものです。

このPRは、AWS IoT CoreとLambdaの連携に関するものです。
このPRは、AWS IoT CoreとLambdaの連携に関するものです。

NOTE

このPRは、AWS IoT CoreとLambdaの連携に関するものです。

このPRは、Python、Java、React、C#などの言語で開発されたアプリケーションを
AWS IoT CoreとLambdaの連携で実行するためのものです。

このPRは、AWS IoT CoreとLambdaの連携に関するものです。
このPRは、AWS IoT CoreとLambdaの連携に関するものです。

PR

1. 2019/03 に AWS IoT Core と Lambda の連携に関する PR

1-1. AWS × IoT × Python × Lambda

NOTE

このPRは、AWS IoT CoreとLambdaの連携に関するものです。

☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

--	--	--	--	--	--

- 00000000000000000000000000000000
- 00000000000000000000000000000000
- 00000000000000000000000000000000

□ □ □ □

2019/03 ~ 2019/08

 /

400□□/6□

□ □ □ □ □ □ □

Python / Docker, Docker Compose / Amazon Batch / AWS IoT, Amazon DynamoDB, Amazon S3, AWS CloudFormation

○○○
 ○○○○○○2○○
 ○○○

--	--	--	--	--	--	--	--	--

[illegible]

1-2. □□□□

プロジェクト概要

概要

2019/03 ~ 2019/06

プロジェクト目的

プロジェクトの目的は、既存のシステムをクラウド環境に移行し、コスト削減とパフォーマンス向上を図ることである。

プロジェクトの範囲は、2つの主要な機能領域に限定される。

プロジェクトの成果は、既存のシステムと同等以上のパフォーマンスを確保し、コストを削減することである。

プロジェクト成果

プロジェクトの成果は、既存のシステムと同等以上のパフォーマンスを確保し、コストを削減することである。

1. プロジェクトの目的を達成すること
2. プロジェクトの範囲を明確にすること
3. プロジェクトの成果を評価すること
4. プロジェクトのWBSを定義すること

2. 2018/11 ~ プロジェクト概要

"プロジェクト"は、既存のシステムをクラウド環境に移行し、コスト削減とパフォーマンス向上を図ることである。

プロジェクトの範囲は、2つの主要な機能領域に限定される。

プロジェクトの成果は、既存のシステムと同等以上のパフォーマンスを確保し、コストを削減することである。

- プロジェクトの目的を達成すること
- プロジェクトの範囲を明確にすること
- プロジェクトの成果を評価すること

プロジェクトの成果は、既存のシステムと同等以上のパフォーマンスを確保し、コストを削減することである。

→ プロジェクトの範囲は、2つの主要な機能領域に限定される。

- プロジェクトの目的を達成すること
- プロジェクトの範囲を明確にすること

3. 2018/10 ~ 2019/02 プロジェクト概要

"プロジェクト"は、既存のシステムをクラウド環境に移行し、コスト削減とパフォーマンス向上を図ることである。

プロジェクトの範囲は、2つの主要な機能領域に限定される。

3-1. AWS × プロジェクト概要

--	--	--	--	--	--

- Form AWS Daily
- Web

□ □ □ □

2019/02 □ 2019/03

--	--	--	--	--	--	--

Amazon ECS Fargate, Amazon S3, Amazon Athena, Python, Docker, AWS CloudFormation

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

AWS

11

Daily [AWS Fargate](#) [1](#)

3-2. AWS × IoT × 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

クラウドエンジニアの必須スキルと学習ロードマップ

基礎知識

- クラウドエンジニアのIoTに関する知識とスキル
- クラウドエンジニアのセキュリティに関する知識とスキル
- クラウドエンジニアのWebに関する知識とスキル

期間

2018/10 ~ 2019/02

学習内容

Java, SpringBoot, Bootstrap, JavaScript, JQuery, C#, Amazon EC2, AWS Batch, Amazon RDS, AWS CloudFormation, Ansible, Vagrant, VirtualBox

学習成果

クラウドエンジニアの必須スキルを習得する

- クラウドエンジニアの必須スキルを習得する
- API, Webに関する知識とスキル

備考

クラウドエンジニアのC#に関する知識とスキルを習得する
クラウドエンジニアのセキュリティに関する知識とスキルを習得する

クラウドエンジニアのIoTに関する知識とスキルを習得する
クラウドエンジニアのWebに関する知識とスキルを習得する

4. 2017/12 ~ 2018/10の学習ロードマップ

クラウドエンジニアの必須スキルを習得する

1. クラウドエンジニアの必須スキルを習得する
2. クラウドエンジニアのセキュリティに関する知識とスキルを習得する

4-1. クラウドエンジニアの必須スキルを習得する

クラウドエンジニアの必須スキルを習得するAWSに関する知識とスキルを習得する

クラウドエンジニア

AWS

EC2, Lambda, S3, DynamoDB, RDS, ElastiCache, API Gateway, CloudFront, ELB, Route53, SNS, SQS, Auto Scaling, CloudFormation, CloudWatch, Cognito, Kinesis, Redshift

クラウドエンジニア

Java, SpringBoot, Python, JavaScript

OS

AmazonLinux, CentOS, Ubuntu

Web

Apache

DB

MySQL, PostgreSQL, Treasure Data

VM

Vagrant, VirtualBox

CI

Git, CloudFormation, Ansible

4-2. 環境構築の自動化

環境構築の自動化は、AWSのサービスを利用して行うことができます。

具体的には、AWSのCloudFormationサービスを利用して、環境構築の自動化を行うことができます。

環境構築

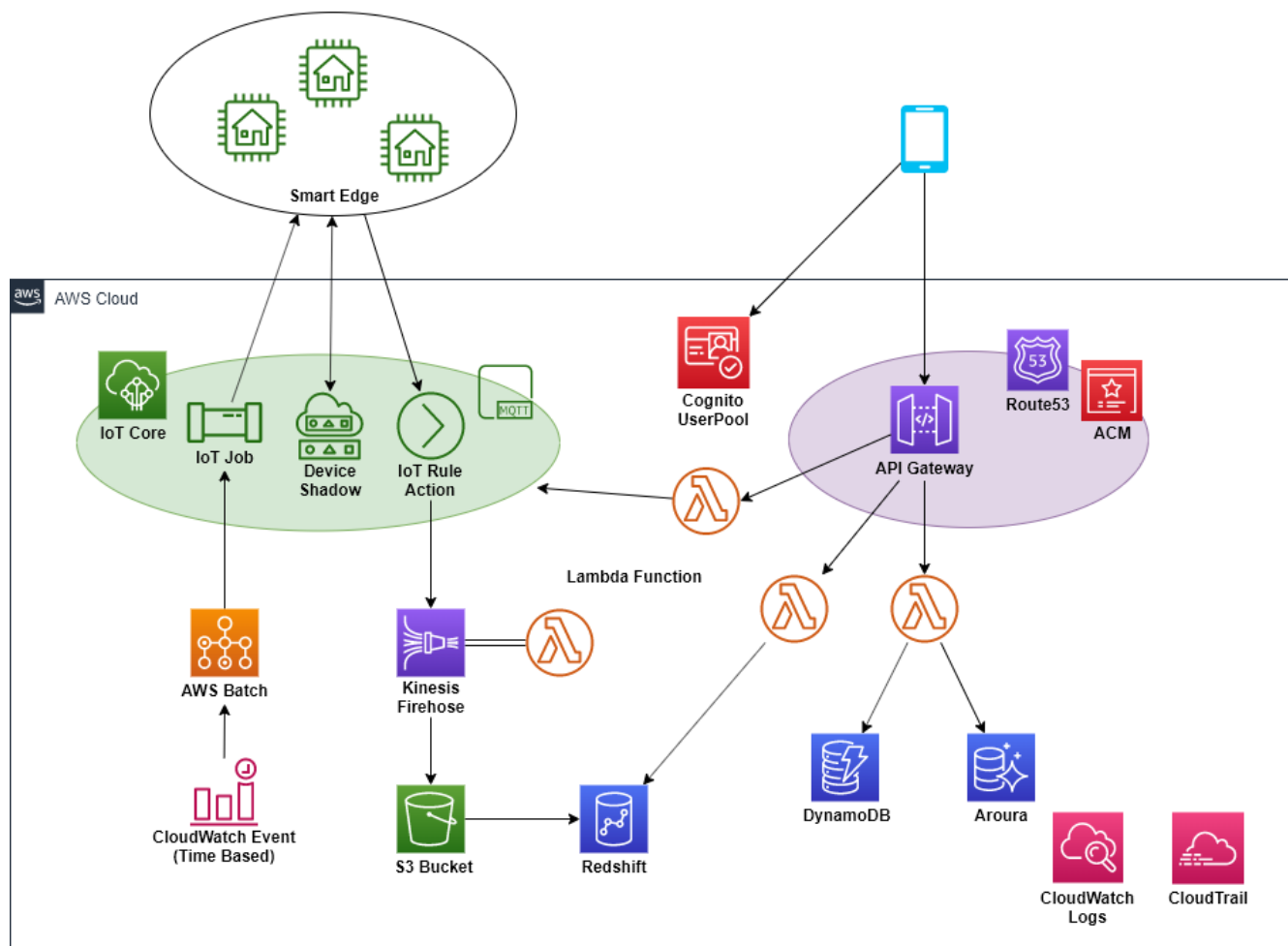
環境構築の自動化は、AWSのサービスを利用して行うことができます。

太陽光発電システム（クラウド側）の開発

太陽光発電システムのセットアップ、蓄電操作、および、太陽光発電量等のIoTデータを収集・分析するシステムを開発。IoTに特化したAWSサービスIoT Core、認証・認可に特化したCognitoを活用することにより、大幅に開発工数の抑えた。

数万台のエッジデバイスから数分間隔で送信されるビックデータをMQTT通信にすることでパケット通信料を削減、また、サーバレス構成であるため、サーバー費用を削減した。

(開発規模：16人月 開発期間：4ヶ月間 ※要件定義を除く)



--	--	--	--	--

[illegible][illegible][illegible]

--	--	--	--	--	--	--	--	--

[illegible][illegible][illegible]

□□□□□□□□□□□□□□□□

- 0000000000000000
- 0000000000000000
- 0000000000000000

00000

- 00 000000